



令和4年度稲毛こひつじ園

事業報告

社会福祉法人 初穂会

-目次-

1	令和4年度 社会福祉法人 初穂会 事業報告概要	- 1
2	令和4年度 事業実績報告	- 4
3	令和4年度 各部門実績報告	
3-1	介護部門	- 6
3-2	医務部門	- 7
3-3	生活相談員部門	- 9
3-4	介護支援専門員部門	- 10
3-5	栄養部門	- 11
3-6	短期入所生活介護部門	- 13
3-7	介護予防通所介護・通所介護部門	- 17
3-8	居宅介護支援部門	- 21
3-9	ボランティア部門	- 23
3-10	機能訓練部門	- 23
3-11	事務部門	- 25
3-12	教育研修部門	- 27
4	各委員会実績報告	
4-1	安全対策委員会	- 28
4-2	衛生委員会	- 29
4-3	褥瘡対策・排泄支援委員会	- 30
4-4	防災委員会	- 32
4-5	食中毒蔓延防止・感染対策委員会	- 34
4-6	広報行事委員会	- 35
4-7	拘束廃止・虐待防止委員会	- 37
4-8	入浴委員会	- 38
5	地域福祉部門	- 39
6	ほっとスペース 稲毛ペコリーノ	- 41

1 令和4年度社会福祉法人初穂会事業報告概要

令和4年度は、昨年同様新型コロナウイルス感染対策を中心に施設内での取り組みとなった。年末年始にかけて、新型コロナウイルスの集団感染が発生した。特にオミクロン株の発症で入居者様の陽性者24名、2月に2名計26名、職員8名および職員ご家族が陽性者となり、2月末まで3か月近く感染対策が続き、新規入所や、ショートステイの受け入れもできない状態であった。保健所の立ち入りで、ゾーン分けの徹底指導など受け、職員の感染対策の徹底により終息させることが出来ました。

特養は新規入所者との面談も感染予防で思うように進められず、空室がある状況が続いた。稼働率も92.8%で目標には届かず新規入所者24名、退所者は25名であった（看取り7名）。ショートステイは感染対策で人の出入りを少なくするために2週間以上のロングショートステイのため稼働率は守られた。デイサービスは居宅事業所のテレワークや併設特養のコロナクラスターにより営業活動が思いのほか進まず、利用者よりコロナ利用控え、休業も8日間、稼働率61.8%平均利用18名にとどまった。施設内での行事については、縁日、秋祭りなど地域との交流の場は中止せざるを得ない状況であった。感染対策しながら小規模でも開催する方向で進め、敬老会は開催できた。また、近隣台地（あやめ台団地）でのあやめ祭りに出店依頼があり協働で行うことができた。新しい取り組みも始め子供会との夏休み昆虫体験、あざみ自治会フードライブ開催と感染対策を取りながら活動は広がりを見せています。令和5年度は地域のお祭り、買い物支援（巡回型、イオン、自治会協力のもと）やフードバンク活動、農福連携など昨年度以上に広げていきたいと思えます。

介護部門は、外国人技能実習生4名、千葉県留学生マッチング受け入れ7名を採用し、文化の理解、細かい指導が出来ていたが介護人材不足解消とはいかず、下半期にかけて職員の退職、産休育休職員が重なり間接部門の現場応援入り日々現場を回してく厳しい現状が続いた。一人一人職員の負担も増していることから日頃からの職員への声掛け、管理職との情報共有し悩みや負担軽減に伴う業務改善検討していく。新入職員が働きやすい環境作りとしてユニット内の整理、研修記録の活用で業務の進捗状況について相互確認出来るようにしていく。職員研修として入職時の導入研修は円滑に行うことができたが施設内での集合研修は感染対策もあり書面での研修が中心であったため小規模単位での対面研修（グループワークも含め）や外部研修参加し研修報告会を行って情報共有していく。ご家族の面会も出来ない状態が続いておりユニット職員⇄相談員⇄ご家族との情報共有も重要とされます。令和5年度は再度職員研修について見直しをしていき（介護職員＝介護福祉士取得へ）知識技術の向上を図り職員が定着出来るように職場づくりを進めてきます。令和4年度は3名介護福祉士国家試験に合格することが出来た。稲毛ペコリーノ活用した職員獲得、学校訪問での新卒採用、引き続き外国人採用（技能実習、専門学校）推進していき教育研修室中心に新入職員、施設内研修にてケアに対する知識向上に努め安定した施設運営を目指す。また、

専門学校、日本語学校を訪問し学生アルバイト、卒業生の声掛け職場説明会、見学会を実施し人材を確保していく。

新型コロナウイルス感染拡大がある中で、適宜抗原検査、ワクチン接種を円滑に進めていき4月以降も感染委員会中心に感染予防につとめていく。

また、地域福祉として今まで取り組んできた地域カフェ、こども食堂、千葉市社会福祉協議会と連携した買い物支援は新型コロナウイルス感染予防のため中止となりましたが、フードバンク活動で他の子供食堂を応援することで千葉市子ども食堂ネットワークに食材提供できる体制が確立できた。今後も地域住民や生活困窮者の支援を継続し職員採用にもつなげていき地元自治会、八街市社会福祉協議会、城西国際大学、千葉大学とフードバンクの提携を結び輪を広げていきます。

社会福祉法人初穂会 理念

“生きる力の輝きを称え共に歩んでいきます”

高齢者や障害者を含む地域の全ての人が互いに助け合い大切さにされ、自分らしく生活できる“時間と空間作り”を通して笑顔と思いやりに満ちた社会の実現を目指します。

基本方針

- 1 利用者一人ひとりにあった暮らしの支援
- 2 利用者の思いの尊重
- 3 地域と共に築く施設
- 4 利用者に共感出来る職員
- 5 利用者の信頼に応える人材育成

令和4年重点目標

- ① 新型コロナウイルス感染対策の継続、自然災害リスク対策を進める
⇒年未年始にかけて特養内コロナウイルスクラスター発生（利用者及び職員）となり、引き続き感染対策の重要性を感じた
- ② 人材確保、特定技能、技能実習生受け入れにより職員窓口拡大に努める
⇒令和4年6月技能実習生4名（インドネシア）の受け入れ、千葉県受け入れマッチング留学生7名（ベトナム）の受け入れ、他特定技能介護の外国人職員の採用を行い、人材確保に努めた。人員不足は続いており引き続き活動は行っていく
- ③ 一人一人尊厳を保ち個々の状況に応じたケアの提供
⇒日々の感染対策の中でユニット内での個々の対応が出来ていた（ご家族との面会が出来ずにストレスを抱えている入所者が多かったが、徐々に line 面会、面会室での対面面会を

開始している)。感染拡大状況を考慮しながら、対応継続していく

④ 地域、医療との連携 地域に根付いた施設運営

⇒地域カフェ、こども食堂、買い物支援は新型コロナウイルス感染予防にて開催出来ず、フードバンク活動、障害者施設、フリースクール、子ども会との農福連携を進めていく。

他の子ども食堂をフードバンクで応援していくため千葉市子ども食堂ネットワークの参加し連携していく

⑤ 法人運営の自立性及び継続確保のため、新規事業開設調査検討を行う

⇒令和5年4月1日付けにて滋賀県高島市指定管理朽木特別養護老人ホーム公募に応募し運営を受託できた。

⇒千葉市増床公募について更に検討していきたい

2 令和4年度 事業実績報告

<稼働率>

()内は2021年度

	実績	稼働率	累計 稼働率
4月	2430 (2481)	90.0 (91.9)	90.0 (92.5)
5月	2698 (2520)	96.7 (90.3)	93.4 (92.6)
6月	2601 (2530)	96.3 (93.7)	94.4 (92.9)
7月	2673 (2587)	95.8 (92.7)	94.7 (93.6)
8月	2677 (2660)	96.0 (95.3)	95.0 (94.2)
9月	2608 (2598)	96.6 (96.2)	95.2 (94.1)
10月	2608 (2688)	93.5 (96.3)	95.0 (94.3)
11月	2556 (2579)	94.7 (95.5)	94.9 (94.0)
12月	2556 (2524)	91.6 (90.5)	94.6 (93.6)
1月	2503 (2637)	87.7 (94.5)	94.1 (93.7)
2月	2143 (2302)	85.0 (91.3)	93.3 (93.5)
3月	2450 (2534)	87.8 (90.8)	92.8 (93.3)
計	30,503 (30,640)		

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
新規入所者数	7名	1名	1名	3名	1名	2名
退所者数	2名	1名	3名	1名	2名	2名

	10月	11月	12月	1月	2月	3月
新規入所者数	1名	1名	1名	0名	1名	5名
退所者数	0名	0名	4名	5名	5名	0名

※令和4年4月～令和5年3月

(新規入所数) 24名 (退所者数) 25名

<短期入所稼働率>

()内は令和 3年度

	実績	稼働率	累計 稼働率
4月	541 (569)	100.2 (105.4)	100.4 (105.3)
5月	571 (545)	102.3 (97.7)	101.4 (101.5)
6月	512 (537)	94.8 (99.4)	98.1 (100.5)
7月	546 (558)	97.8 (100.0)	98.0 (100.3)
8月	569 (542)	102.0 (97.1)	100.0 (98.7)
9月	549 (525)	101.7 (97.2)	100.9 (98.0)
10月	554 (558)	99.3 (100.0)	100.1 (99.0)
11月	534 (540)	98.9 (100.0)	99.5 (99.5)
12月	529 (537)	94.8 (96.2)	97.2 (97.9)
1月	515 (485)	92.3 (86.9)	94.8 (92.4)
2月	512 (498)	101.6 (98.8)	98.2 (95.6)
3月	605 (589)	108.4 (105.6)	103.3 (100.6)
計	6,537 (6,483)	99.5 (98.7)	99.3 (99.1)

<居宅介護支援稼働率>

	要介護	要支援	新規	終了	稼働率
4月	66	9	4	4	95.3
5月	70	8	4	2	100
6月	69	8	3	0	98.6
7月	72	8	3	4	102.7
8月	71	7	0	0	100.7
9月	65	6	1	1	91.9
10月	67	6	0	2	94.6
11月	64	6	2	4	90.5
12月	65	6	2	1	91.8
1月	68	4	4	0	94.5
2月	65	4	3	2	90.5
3月	63	5	2	5	88.5
計	805	77	28	25	94.9

3 令和4年度 各部門実績報告

3-1 介護部門

【目標】

1. 利用者様に対する接遇マナーの向上
2. 多職種連携を強化し、利用者様の充実した日常生活の構築
3. 介護、医療知識を習得でき、希望、熱意を持った人材の育成
4. 当施設を地域づくりの拠点へ

【具体的方策】

- 1)利用者様やご家族、そして介護者も交えて心地よい環境を作り出し、個人の成長だけでなく組織として利用者様やご家族から強い信頼を寄せられる施設を目指す
- 2)施設は利用者様の生活の場であることを念頭に、集団生活への調和と安全性に配慮しながら、生活に楽しみを見出せるよう個別の対応
- 3)サービスの質の向上
- 4)行事等を通して地域との連携を図り、当園が中心となり地域を元気にできる試みを企画する

評価

1. 利用者様に対する接遇マナーの向上
コロナウィルス対策にて職員が集まった研修は行わず、書面での学習にした。
書面では定着率がわかりづらいため、次年度は対面研修を再開する。
2. 多職種連携を強化し、利用者様の充実した日常生活の構築
コロナウィルス対策にて面会の禁止や外部業者、訪問歯科、訪問理容等の制限もあったが、一人一人の個性に合わせた日常生活を営めるよう、各職種が協働し支援してきた。
オンライン面会、ベランダ面会の実施出来た。
3. 介護、医療知識を習得でき、希望、熱意を持った人材の育成
繰り返しシュミレーションを行ったが、実際の感染時は慌て、後手に回ることもあった。
感染症対策に対する知識を各職員がさらに深められるよう再教育をしていく。
4. 当施設を地域づくりの拠点へ
コロナウィルス感染予防の為、季節行事の開催や地域住民の参加を呼び掛けたものの納涼祭、文化祭は開催出来なかったが、フードバンク活動に力を入れた。

総評として介護職員の個々のスキルアップは必要である。介護職員＝介護福祉士として知識や介護技術、接遇に対してレベルアップ出来るように、施設内研修や外部研修、OJTでの実務での研修を強化していく。また、介護福祉士資格取得に施設あげて協力していく

実務者研修(実技)、介護福祉士対策講座、直前模試講習を施設内で開催し、試験日までサポートしていく。

接遇に対しては、現在面会が中止しておりご家族とのやり取りが少ないため外国籍職員も含め接遇マナー研修の実施

外国籍職員向けの日本語フォロー講座

改めて一人一人尊厳ある介護の見直し

以上のことを令和5年度は進めてき入居されている方々が安心安全に生活が出来るようしていきます。

3 - 2 医務部門

【目標】

- I. 入居者様が心身共に、日々穏やかに過ごせるよう努める
- II. 介護、医療連携の充実を図る
- III. 職員の健康増進
- IV. 地域に根ざした稲毛こひつじ園の構築
- V. 新型コロナウイルス感染防止の徹底

【施策・評価】

- I. 入居者様が心身共に、日々穏やかに過ごせるよう努める。
 1. 午前・午後と各ユニットを巡視し、介護職員から情報伝達を受け、入居者様の異常の早期発見に努めた。また、入居者様へ積極的に声をかけ、状態の観察に努めた。
 2. 介護職員・相談員・栄養士・機能訓練士との連携を図り、入居者様が日々穏やかに過ごせるよう情報伝達・情報共有に努めた。
 3. 回診時、囑託医へ情報を伝達。また、内服薬や状態の相談を実施し入居者様の健康管理に努めた。
 4. 内服薬の管理では、医務職員間でのダブルチェックを徹底。配薬忘れ・誤薬事故の防止に努めた。
- II. 介護、医療連携の充実を図る
 1. 介護職員との連携として、口頭での情報伝達のほか、連絡ファイルを活用し情報共有に努めた。
 2. 医療連携として、入居者様の受診先医療機関へ、受診依頼書や診療情報提供書・温度板を提出。
情報伝達に努めた。また、早めの受診対応を心がけ重症化防止に努めた。
- III. 職員の健康増進

1. 新型コロナウイルス流行により職員の健康管理の徹底し感染防止に努めたが結果陽性者発生したため、今後も職員とのコミュニケーションの充実・月2回の抗原検査施行継続し、体調不良者の悪化を未然に防ぐように努めた。

IV 地域に根ざしたこひつじ園の構築

- 1 地域との関わりは新型コロナウイルスの流行でイベント、地域カフェ等が中止になっている、本年度も前年度に引き続き中止している
- 2、このコロナ禍で家族との連絡は相談員を通じて行っているが、高齢化していく家族との連携の難しさを感じることも多々あった、これからも更なる関係向上に努めていく

V コロナウイルス感染防止の徹底

新型コロナウイルス流行で感染防止の徹底を行っていたが入居者様に陽性者が発生する事態となり数ヵ月後には命をおとすという最も恐れていたことがおき無念でたまりません。今後はより一層感染防止の強化徹底に努めていく

医務 令和4年度 年間集計表

	内科	皮膚科	施設内 受診 合計	外部受診	受診 付き添い	オンコール	救急搬送	入院	カンファレンス	看取り
4月	90		90	51	4	5	3	13	4	8
5月	90		90	47	3	3	0	5	4	8
6月	65		65	60	7	5	4	7	4	8
7月	33		33	54	3	2	1	2	6	8
8月	96		96	54	11	4	2	3	1	7
9月	3		3	100	41	1	0	1	4	9
10月	13		13	74	2	2	3	5	4	9
11月	0		0	63	3	4	4	5	4	9
12月	16		16	60	10	5	3	8	4	10
1月	63		63	63	7	2	3	4	4	10
2月	9		9	40	2	1	1	6	3	9
3月	66		66	50	9	1	2	4	3	7
合計	544		544	716	102	35	26	63	45	102

死亡退去者

	死亡日	氏名	年齢	死因	死亡確認場所	令和4年度看取り数	看取り総累計
1	令和4年5月7日	S	90	老衰	稲毛こひつじ園	17	17
2	令和4年6月10日	T	95	心不全	稲毛病院		
3	令和4年6月26日	S	86	腎不全	海浜病院		
4	令和4年7月26日	S	94	老衰	稲毛病院		
5	令和4年8月2日	Y	85	老衰	稲毛こひつじ園	36	36
6	令和4年9月10日	H	95	老衰	稲毛こひつじ園	3	3
7	令和4年12月4日	M	85	呼吸不全	増田病院		
8	令和4年12月16日	A	86	心不全	みつわ台総合病院		
9	令和4年12月28日	S	98	老衰	稲毛こひつじ園	272	477
10	令和5年1月1日	K	98	心不全	市原循環器医療センター		
11	令和5年1月3日	I	85	心不全	千葉大学病院		
12	令和5年1月7日	W	92	心不全	千葉大学病院		
13	令和5年1月8日	K	81	心不全	千葉大学病院		
14	令和5年1月19日	B	94	老衰	稲毛こひつじ園	294	598
15	令和5年2月3日	K	88	老衰	稲毛こひつじ園	19	19
16	令和5年2月11日	S	96	老衰	稲毛こひつじ園	44	44
17	令和5年2月22日	O	93	老衰	稲毛こひつじ園	12	12
18							
19							
20							
21							

長期入院での退所者（施設復帰の不可のため退所）その他

	退所日	氏名	年齢	病名	状況
1	令和4年3月15日	M	86	創部管理困難	退院困難にて退所となる。
2	令和4年4月26日	S	88	経口摂取困難	退院困難にて退所となる。
3	令和4年4月26日	S	66	肺炎	退院困難にて退所となる。
4	令和3年9月13日	T	92	経口摂取困難	退院困難にて退所となる。
5	令和4年6月30日	K	84	経口摂取困難	退院困難にて退所となる。
6	令和4年8月19日	M	83	創部管理困難	退院困難にて退所となる。
7	令和4年9月15日	H	96	経口摂取困難	退院困難にて退所となる。
8	令和4年12月2日	S	92	経口摂取困難	退院困難にて退所となる。
9	令和5年2月1日	K	96	胆のう炎	退院困難にて退所となる。
10	令和5年2月28日	T	88	肺炎	退院困難にて退所となる。

入院先病院	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
稲毛病院	5	2	6	1			2	4	2			1	23
高洲訪問クリニック													0
四街道徳洲会病院	1		1										2
みつわ台総合病院	3				2	1		2	2	3		1	14
市原循環器医療センター									1	1			2
千葉医療センター		1											1
海浜病院	2												2
千葉中央メディカルセンター					1								1
成田富里徳洲会病院	1	1											2
東邦大佐倉病院							1	1	1				3
鏡戸病院												1	1
千葉中央外科内科										1	2	1	4
青葉病院				1						1		1	3
千葉徳洲会病院				1	1								2
増田病院							2	2	2	2	2		10
行徳総合病院								1	1				2

3-3 生活相談員部門

【 目 標 】

- I.特養稼働率95%以上の達成
- II.地域との連携を深め、地域に根差した施設となれるよう努める

【 施策、評価 】

I.目標稼働率の達成に向けた取り組み

- ・令和4年度の平均稼働率は92.8%となり、目標稼働率の達成は果たせなかった。
要因としては入院期間の長期化や療養型病床への転院、コロナ感染による状態悪化などが考えられる。
- ・コロナ感染症の広がりを抑える事に時間がかかり新規入所者の受け入れが難しい状況だった事も影響した。
- ・昨年同様、今年度も看取りでの退所者が多かった。

- ・特養空床発生時、ショートステイの有効活用を行い入所に繋げるなどの連携を取る事が出来た。
- ・必要時は入居者の居室変更をし、バランスの良いユニット編成をおこなった。

II.地域との協力体制を構築し、地域のニーズをくみ取り施設運営に反映していく

- ① フードバンクなどを通して地域施設やひとり親家庭の支援する企画を実施した。
- ② 必要に応じた各種福祉サービス、社会資源の把握・紹介を行った。
- ③ 稲毛ペコリーノとの連携を強め、法人事業の情報発信を行った。

3 - 4 介護支援専門員部門

1. 情報収集による生活課題の明確化

日頃の業務の中で日常的にユニット巡回をおこない、ユニット業務も行う機会を設けながらご利用者や各部署の職員とコミュニケーションを図り情報収集することができた。

また、毎朝の医務、栄養課との合同申し送りにも参加することでご利用者の日頃の状態や食事状況などを詳細に把握し、ご家族等への情報提供に反映することができた。

2. 支援内容、生活の質向上に向けた取り組み

各部署と利用者の状態に合わせたカンファレンスを適宜実施することで課題の掘り起こしに繋がった。また、より詳細な情報をご家族へ提示できるよう日頃からのワイズマンへの入力、相談記録への記載内容の徹底を図ることができた。

ご家族からの記録提供のご要望があった場合は速やかに情報提供を行うことで、ご理解を得て頂くことができた。

ご利用者の身体機能の維持・向上を図る目的からも機能訓練士の意見を踏まえながら各部署の意見を集約し、必要な福祉用具の導入をご家族へ相談。ご理解を得たうえで導入し生活の質向上に繋がることことができた。

3. ご利用者の健康管理、医療機関との連携

囑託医の回診に同行することでご利用者の健康管理に務めることができた。

また、ご利用者の健康状態を随時ご家族へ報告し、ご家族からの要望などを囑託医や外部医療機関へ情報提供し、極力受診同行等の調整を図るなど医療機関とのスムーズな連携に努めた。

看取りに関しては、事前にご家族の意向をしっかりと確認した上で囑託医の看取り診断を受け、看取り指針・ケアプランの説明をご家族に行い定期的なカンファレンスも実施。看取りカンファレンスについては、ご利用者の状態やご家族の意見を踏まえながら 7~10 日又は必要に応じ

て開催し、ご家族の意向を確認できた。

ケアプランの立案数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
通常	17	14	14	23	19	14	12	14	17	13	23	12	192
看取り	0	1	1	0	1	1	0	0	1	1	3	0	9

3 - 5 栄養部門

【目標】

- 1、日本の行事や季節を感じる食事の提供
- 2、ご利用者様・ご入居者様、おひとりおひとりの身体状況・摂取状況に合わせた食事内容・食事形態・食事量の提案・提供
- 3、ご入居者様が最期の時まで自らの口で味わうことができるための経口維持支援体制の強化
- 4、即座に感染対応できる体制整備

【具体的対策】

- 1、日本の行事や季節を感じる食事の提供
 - ① 各部署との意見交換が出来る機会の設定
⇒月1回、給食運営会議を開催し、委託業者を交えて食事提供に関する検討を行った。
感染対応時は、文書を提出していただき、栄養室がとりまとめた。
 - ② 選択する喜びを感じていただける機会の設定
⇒昼食時、主菜セレクトや主食セレクトを行った。(対象:デイサービス・ショートステイ)
 - ③ 年1回以上、ご入居者様を対象とした嗜好調査の実施
⇒2月上旬実施。ユニット職員に聞き取りをお願いした。調査結果は、給食運営会議内で報告し、資料を配布した。
 - ④ 月1回イベント食を設定し、行事や季節感を味わえる食事の提供
⇒グレードアップ食と合わせて月2回、旬の食材を使用して普段より豪華な食事を提供した。
 - ⑤ 松花堂弁当箱など普段と違う弁当箱・食器を使用する
⇒イベント食中心に盛り付けを工夫した。(感染対応時、松花堂弁当は使用しなかった)
- 2、ご利用者様・ご入居者様、おひとりおひとりの身体状況・摂取状況に合わせた食事内容・食事形態・食事量の提供
 - ① 当園の栄養基準・食種に基づいて食事を提供する

- ⇒特に新規入所者様は、既往歴・内服薬等の情報により食事内容・形態を検討した。
- ② 日々のミーラウンドにて、ご利用者様・ご入居者様の身体状況・食事摂取状況の把握を行い、必要に応じて食事内容の検討を関連部署と行い、栄養ケア計画を見直していく
⇒各職種と情報共有・意見交換、ご本人様のご要望を取り入れ栄養ケア計画の見直しを行った。
 - ③ ご入居者様に対し、月 1 回以上の栄養評価を行い、低栄養リスクに応じた期間でのモニタリングを実施して、低栄養状態・低栄養のリスクの高いご入居様においては早期に対応策の検討・栄養介入を行い、悪化防止や改善にむけての栄養ケアマネジメントに努める
⇒体重測定に合わせて平均食事摂取量を割り出し、改善策等を各職種と相談した。
 - ④ 褥瘡対策委員会にて、他部署との情報共有を行い、褥瘡の改善・予防に取り組んでいく
⇒「高リスク一覧表」「状況一覧表」の情報発信をして褥瘡対策を行った。
 - ⑤ 外部の研修会や講習会へ参加し、専門職としての質の向上と日々変わりゆく栄養に関する情報や知識の習得に努め、ご利用者様・ご入居者様の栄養ケアマネジメントに反映させる
⇒9月千葉市保健所開催の給食施設研修会（「味わう力で食を豊かに」「食品衛生について」）に Zoom 配信にて受講した。

3. ご入居者様が最期の時まで自らの口で味わうことができるための経口維持支援体制の強化

- ① ご入居者様を対象にスクリーニングを行い、摂食嚥下障害及び誤嚥のリスクが高いご入居者様を選定する
⇒感染対応のため、医師によるテスト・指示をいただける機会が少なかったが、今年度は新規 2 名選定した。
- ② 医師の指示のもと、経口維持支援の対象となったご入居者様を対象に介護職員・生活相談員・機能訓練士・看護師・管理栄養士等による多職種での食事観察・会議をもとに、経口維持計画書を作成して、状態の変化に合わせて計画書の見直しを行う
⇒各職種の意見を取り入れ、対象者の経口摂取・食事摂取量の維持・改善ができた。

4. 即座に感染対応できる体制を整える

- (1) 感染委員会に参加し、最新の感染対応のマニュアルを確認する
⇒感染対応のため、委員会未開催時は、委員長や管理職に相談し、委託業者に指示・文書掲示をした。
- (2) 給食委託業者と情報共有し、感染対応が実践できるように準備をする
⇒随時、情報更新して感染拡大・配膳下膳による感染を予防した。
- (3) 物品不足や動線停滞が起きないように、必要に応じてシミュレーションを実施する
⇒ディスプレイ食器については、在庫表を作成・利用して不足することなく使用できた。作業手順については、委託業者の担当者と一緒に配膳方法を確認した。

3 - 5 短期入所生活部門

【 目 標 】

- I. 「自らが利用したい。家族を利用させたい。」と思えるような、利用者が安心して住み慣れた地域で生活できるよう個々のニーズにあった介護サービスを提供する。
- II. 心身ともにより生活しやすい環境を整え、利用者が安心して生活が送れるよう各部門や外部機関と連携し支援する。
- III. 常に利用ニーズを調査し、必要ニーズに対応した支援を行う。
- IV. 感染症拡大防止対策を行う。

【 施策・評価 】

- I. 前年度から継続して新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、面会制限や病院以外の外出の制限を行い、出入りを少なくするために短期間のショート利用の受け入れを自粛し、感染状況を考慮しながら2週間以上の利用や感染者が多い状況では1カ月以上のご利用で調整しながら受け入れを実施した。その為、レクなども外出企画などの実施や協力ユニットや施設行事として合同でのレク等も出来なかった時期もある為、少しでも楽しんでいただけるようユニット内でのレクを工夫するよう対応した。しかし、最近は個々の状態に合わせた個別レクの実施の必要性も出てきている為、今後の課題として対応していきたい。また、感染対策が軽減され通常の受け入れが再開した際にも個別レクの必要性はあると思われる為、工夫しながら対応していく。

他事業所との連携に関しては、特に今まで関わりがなかった事業所と関わりを持つ中で密な連絡・対応をすることで少しずつ信頼関係が構築出来てきている状況もあり、新規利用相談も増えてきている為、空室が出て早い段階で利用に繋げることが出来たり、特養の空床利用に繋げることもでき稼働率を保つことが出来た。今後も『利用したい』と思っただけの選ばれる施設になれるよう活動していきたい。
- II. 施設内各部署との連携を強化し、出来る限り柔軟な受け入れが出来るよう対応に努めた。その為、課題となっていた空床利用にも幾分繋げることができた。しかしながら施設内の新型コロナウイルスの感染拡大・クラスターが発生したり、ご利用者様・職員・職員家族に発熱者が出る度に各フロアにて感染対応が開始され、その都度受け入れが出来なくなることも多く稼働率の向上が難しい状況もあったが、感染対応中にも感染

対応期間が終了した時に直ぐに稼働できるよう他事業所にも都度説明しつつ調整しながら対応したこともあり、感染対応期間が明けると同時に動くことが出来たため割と早く稼働率を回復することができた。今後も引き続き、感染に注意しながら各部署との情報共有化を図り連携を強化し出来る限り柔軟な対応が出来るよう体制を整えていく。

- III. 稼働率としては昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、ショートの受け入れを感染拡大の状況をみながら2週間または1カ月以上の利用で受け入れを実施していたこともあり入退所の動きが少ない為、比較的稼働率を保つことが出来たが施設内で新型コロナウイルスに罹患しクラスターが起きてしまった月は、受け入れ機能がストップせざるを得なかったこともあり稼働率が下がってしまった。しかしながら、他事業所との信頼関係を構築してきていることもあり、新規利用問い合わせも頂けているため直ぐに稼働率を回復することが出来てきている。
- 今後も引き続き、ホームページへの空室状況などの情報の更新や各事業所への営業活動を小まめに実施し営業活動を実施していきたい。また今後感染対応軽減により通常の受け入れが再開できるようになった際は直ぐに受け入れ情報を提示できるよう柔軟に対応していく。

また、最近課題になってきている困難ケースの受け入れに関しては、特に保証人様が存在しない又は遠方で対応できないケースも増えてきており、今後も増えてくる案件と思われる。そのような困難ケースでも受け入れが出来るよう社会資源を上手く利用して施設利用に繋げられるよう情報収集し提案していけるよう対応していく。

- IV. 今年度は、ご利用者様が疥癬や新型コロナウイルスに罹患するケースは見られなかったが、施設内では疥癬や新型コロナウイルスに罹患するケースがあったため今後も引き続き感染防止策として定期的なユニット内の消毒や清掃を定期的実施し環境整備に努める。また実際に罹患者が出てしまった時には直ぐに感染対応に順応出来るよう、日ごろからシュミレーションを行うようにする。

今年度においても新型コロナウイルスの影響が大きく、色々なところで計画していたことが達成できず課題が残る結果となってしまった。R5.5.8～新型コロナウイルスの『5類感染症』への移行が決定していることもあり、今後は徐々に感染対応の軽減が予測される。しかしながら、感染症が完全になくなる訳ではなく、感染症の脅威も高齢者施設においては変わらない為、色々なところで緩和されたとしても引き続き、感染対策は徹底し受け入れ時も注意を払い対応していく。

<送迎エリア>

稲毛区 中央区 若葉区 花見川区 美浜区 緑区 の千葉市全域

<送迎実施地域>

区	町
稲毛区	園生町 天台 穴川 柏台 小仲台 轟町 あやめ台 作草部 稲毛町
若葉区	若松町 みつわ台 桜木町 東寺山町
中央区	千葉寺町 栄町
花見川区	千種町
美浜区	真砂 幸町
緑区	
その他	

<要介護度別利用状況>

()内は令和 3年度

	男	女	計
要支援1			
要支援2			
要介護度1	1 (0)	1 (0)	2 (0)
要介護度2	0 (0)	2 (2)	2 (2)
要介護度3	7 (4)	13 (15)	20 (19)
要介護度4	1 (4)	9 (5)	10 (9)
要介護度5	0 (0)	0 (0)	0 (0)
計	9 (8)	25 (22)	34 (30)

<新規契約数>

()内は令和 3年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
男	0 (0)	0 (1)	1 (0)	1 (0)	0 (1)	0 (0)
女	2 (0)	2 (0)	1 (1)	2 (0)	1 (0)	0 (0)
計	2 (0)	2 (1)	2 (1)	3 (0)	1 (1)	0 (0)
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
男	1 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (1)	2 (1)	0 (0)
女	0 (0)	2 (1)	0 (0)	2 (2)	1 (1)	0 (0)
計	1 (0)	3 (1)	0 (0)	2 (3)	3 (2)	0 (0)

<行事>

- 4月 おやつ作り(メイプルプリン)
3階ベランダにてピクニックおやつ
- 5月 なし
- 6月 おやつ作り(どら焼き)
- 7月 昼食作り(そうめん・天ぷら)
- 8月 (感染対応につき中止)
- 9月 敬老のお祝い
- 10月 ハロウィンパーティー
- 11月 昼食作り(焼うどん)
- 12月 クリスマス会(感染対応につきプレゼントのみ)
- 1月 (感染対応中につき中止)
- 2月 おやつレク(チョコカップケーキ)
- 3月 おやつレク(ミニホットケーキ)

※ その他、毎日午前10:30～集団体操

塗り絵・脳トレドリル・かるた・百人一首・クイズ
体操・貼り絵等を実施。

3-7 介護予防通所介護・通所介護部門

【 目 標 】

1. ご利用者の思いを尊重した、個別化したケアの提供
2. 職員の資質向上（人を活かして育てる）
3. 近隣地域と連携し共に、築くデイサービス

【 事業概要 】

営 業 日 … 月曜日～土曜日(祭日含む) 1月1日～3日は休業
サービス提供時間 … 9：30～16：30
利 用 定 員 … 30名

【サービス内容】

送迎サービス・食事の提供・入浴・レクリエーション・生活相談
健康チェック・その他、必要な介護・個別機能訓練

【ご利用者の状況】（2022/4/1～2023/3/31 現在）

(1)年齢構成

年 齢	男	女	計
50～59	0	0	0
60～69	2	0	2
70～79	3	6	9
80～89	7	29	36
90～	9	12	21
合 計	21	47	68
最高年齢	98	98	
最低年齢	60	74	
平均年齢	85.4	86.0	85.7

(2)介護度内訳 (3/31 現在利用中のお客様のみ) … 平均介護度：2.2

介護区分	支援1	支援2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5
人数	1	2	13	15	13	6	1

(3)新規利用受入れ状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
人数	1	3	5	1	2	2	1	3	0	2	2	0	22

(4)終了理由

理由	入所	転居	入院	死亡	療養	他DS	自己都合	合計
人数	7	1	6	1	0	0	5	20

(5)月間利用状況 延べ人数

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
営業日数	26	26	26	26	25	26	24	26	25	22	24	26	302	25.1
稼働率	16.7	17.6	18.2	18.8	17.4	17.6	18.8	18.0	18.8	18.5	19.6	19.1	216.4	18.0
月合計	449	460	474	489	436	458	452	468	470	408	472	497	6095	507
稼働率	66.7	63.8	62.5	63.9	64.6	61.1	59.8	61.0	64.9	58.6	58.6	55.9	742.7	61.8

【ボランティアの受入れ状況】

(1)新規受入れ状況

開始月	団体名：内 容
	※感染対応の為、受け入れなし

(2)定期受入れ状況

受入日	団体名：内 容
第1金曜	ゆる体操 ※感染対応の為、中止
第4金曜日	音楽ボランティア ※感染対応の為、中止
第3金曜日	ゴムバンド体操 ※感染対応の為、中止
第3水曜日	ハーモニカ演奏 ※感染対応の為、中止
毎週火曜日	太極拳（8月～中止） ※感染対応の為、中止
25日以降相談	さくら会 ※感染対応の為、中止

奇数月第1水曜日	萩の会 ※感染対応の為、中止
不定期	書道の日・オカリナ演奏・フラダンス・落語の会

※感染対応の為、全て中

【コロナに伴う休業】

令和4年7月15日

10月24日、25日

12月23日、24日

令和5年1月21日、23日

3月30日

計8日間

【年間行事】

	内 容
4月	壁画作成・おやつ作り（桜餅どら焼き）
5月	こいのぼり作り・水ようかん・カーネーション作り
6月	おやつ作り・キラキラゼリー・父の日抹茶ゼリー
7月	七夕（短冊・飾り作り）・パン屋
8月	おやつ作り・すいか割り・クリームソーダ
9月	敬老会・
10月	ハロウィン仮装パーティー・芋モンブラン
11月	おやつ作り（焼き芋）・ホットケーキ・秋祭り・魚釣りレク・パン屋
12月	壁画ツリー作り・クリスマス会・餅つき（施設協同）
1月	初詣レク・だるま作り
2月	節分・どら焼き
3月	ひな祭り・お雛様作成
定期	毎月：カレンダー作り・壁画・体重測定 食 事：主菜セレクト(毎日)・行事料理（イベント食） おやつ：ドリンクセレクト

【研 修】

	内 容
4月	挨拶・接遇マナー
5月	食事介助と食事形態
6月	虫歯予防・口腔ケア
7月	熱中症・脱水予防
8月	記録・報告・連絡・相談
9月	車いす・歩行介助
10月	防災・交通安全
11月	感染予防
12月	緊急時の基礎知識
1月	地域の環境について考える
2月	認知症・行動障害の理解
3月	今年度の振り返りと来年度にむけて

※教育研修室主催

【総括】

令和4年度の実績は、1日平均18.0名、平均稼働率は、61.8%であった。

またコロナに伴う休業は8日間となりました。

今年度も新型コロナウイルス感染対応の為、自席にて出来るレクリエーションや壁画などの自席で楽しめるレクリエーション活動に力を入れ制作を提供させていただきました。また、「DKエルダーシステム」という専用機器を使用し、3つの機能（運動・口腔・認知）を維持・向上できる様に、生活総合機能改善機器それら機能を改善できる様な取り組みを開始し継続していきます。

デイサービスではご利用者様、ご家族様の思いを尊重したケアを行うために、職員間での情報共有の徹底やケア方法の統一・見直しを行い日々ご提供させていただきました。

来年度も引き続きコロナ禍での事業所のあり方や、対応方法を検討し、地域の事業所との連携・連絡が取れる様に信頼関係を深め構築努めていきます。

ご利用者様に気持ちよくご利用していただくためにも職員一同接遇を意識し、ケアの統一を図りご提供させていただきます。

3-8 居宅介護支援部門

1. 居宅介護支援事業

(1) 新規受け入れ

- ・千葉市あんしんケアセンター、病院及びご家族から直接の依頼あり。
- ・定期的にあんしんケアセンターへの訪問を実施。
- ・入院された利用者様の病院へ地域連携シートを提供し、地域連携室MSWとコミュニケーションをとるよう心掛けている。

※2名体制時で報告 ※（ ）内は1名当たりの担当数

目標実績件数 要介護 70 (35) 件/月 要支援 16 (8) 件/月

年度末延べ件数 要介護 805 件・要支援 77 件 (0.5 件換算) 稼働率 94.96%

実績無し 21 件(年間)

R4年3月現在 契約件 (要介護 67 件・要支援 7 件)

管理者：要介護 34 件・要支援 5 名/専任：要介護 33 件・要支援 2 件

- ・契約しているが、入院やサービス利用休止される方がおり、実績に反映できていない。
- ・年末より体調不良による入院者が増えたことで実績無しが著しく増えてしまったが、

新年度になり4月以降在宅復帰され支援を再開している。

- ・体調の変化により区分変更される利用者様がいる為その都度対応している。
- ・実績にならないが、利用者様やご家族等の相談や対応を行っている。

(2) 週1回居宅会議を開催し、業務内容や申し送り事項、及び利用者情報等の共通理解や事例検討を行い事業所として、問題解決を図るよう心掛けている。

法令遵守し安定した運営をすることを心掛けているが、業務点検や自主点検迄は定期的に行うことができていない。介護支援専門員2名で声を掛け合いながら確認していくよう注意していく。

2. 要介護認定調査委託事業

(1) (後期研修) 宇佐美 CM・宮道 CM オンラインにて受講。

(2) 千葉市各区、その他の自治体からの委託依頼を受けているが、緊急事態宣言後は感染拡大予防の観点から、同じ法人内特別養護老人ホームの認定調査のみ委託を受けた。

R5年3月末延べ12件「千葉市稲毛区9件・美浜区2件・八街市1件」

3. 事務処理を円滑に行うため業務の分散化を図る。効率よく業務を遂行できるよう努める。

契約書等の書類製本は介護支援専門員で時間がある時に行っている。

2名体制となりコロナ禍の中、PCR検査を毎週実施するなど独自の感染予防対策を実施しながら、業務に当たってきた。またワイズマン対応のタブレットを使用することで、在宅勤務時等も、業務を遂行できるようになった。利用者対応の為の書類作成や入力業務の為に残業することが多い。

事務処理や業務が円滑に行うために見直し等相談していく。

4. 質の高いケアマネジメントの推進

介護保険改正にあたり、質の高いケアマネジメントを推進するために5年ごとの更新研修を受講。

5. 職員の資質向上のための研修(関係機関との連携・地域とのつながり)

自身の日程調整を行い、できる限りオンライン研修や集まりに参加し、医療機関・あんしんケアセンター・サービス事業所・地域との連携を作り、深めていく努力を継続する。

	研修内容
4月	圏域ケアマネ連絡会
5月	圏域ケアマネ連絡会、圏域主任ケアマネ連絡会 介護支援専門員更新研修（5月～8月）
6月	第1回稲毛区多職種連携会議、第1回稲毛区ケアマネ研修会
7月	圏域ケアマネ連絡会/稲毛区ケアマネ事例検討会
8月	第1回千葉市自立促進ケア会議)/稲毛区地域ケア会議
9月	
10月	美浜区ケアマネ研修会/圏域ケアマネ連絡会/第1回「千葉市自立促進ケア会議」
11月	地域ケア研修会「高齢者虐待」) 萩台町地区地域ケア会議(参集)
12月	第2回自立促進ケア会議/第2回稲毛区ケアマネ研修会
1月	稲毛区ケアマネ事例検討会 圏域ケアマネ連絡会
2月	第3回自立促進ケア会議・千葉市災害対策研修 介護支援専門員更新研修（2月～5年5月）
3月	千葉市高齢者権利擁護・身体拘束廃止研修会/第2回稲毛区事例検討会(Zoom研修)

3-9 ボランティア部門

新型コロナウイルス感染予防の為中止

3-10 機能訓練部門

【 目標 】

1. 一人一人尊厳を保ち個々の状況に応じた機能訓練や資源の提供
2. 新型コロナウイルス感染対応の継続
3. 地域へ貢献できる活動

【 事業報告 】

1. 一人一人尊厳を保ち個々の状況に応じた機能訓練や資源の提供

職員体制は前年度と変更なく、特養常勤：原澤・兼任常勤：黒沢・デイサービス常勤：椎葉となっている。今年度は感染症対応が続いたこともあり、特養の体制加算人数は年間を通じて 82～88 名(定員 90 名)となり、前年度に比べ 1～6 名実施人数が減少している。通所介護においては前年度同様に、2人体制で機能訓練を行える事で見守りが強化でき安全面の向上、車椅子の方や介護度が高い方への個別での対応、複数人でのメニュー（数人での歩行訓練や風船パレー）が行えるようになった。

短期入所に関しては、コロナウイルス感染対策もあり、令和 3 年度から個別機能訓練を中止しているため実施人数をあげることができなかった。

2. 新型コロナウイルス感染対応の継続

小まめな消毒や手洗いの実施、感染対応フロアへの往来の制限をする等、感染症対策を励行することができた。

3. 地域へ貢献できる活動

コロナウイルス感染拡大防止の観点から、地域活動は令和 3 年度から中止となっている。

【 総括 】

令和 4 年度は職員体制を維持できたが、新型コロナウイルス感染症による感染対応が長期化したこともあり、特養においては訓練実施数を維持することが難しい状況となった。次年度は相談員をはじめとした関連職種との連携を図り、定員数に近い機能訓練実施数を維持できるように努めていく。また、前年度同様に機能訓練士全員が感染症拡大防止の意識を持ち、ご利用者様個人に合わせた質の高い訓練を提供できることを目標に支援・活動を行っていく。

3-11 事務部門

【 目 標 】

事務部門は法人の理念・基本方針・中長期計画・重点目標を達成するために目標を以下の通り定める。

令和4年度目標

1. 離職防止のための職場環境の整備
2. 人材定着と雇用管理
3. 外国人雇用管理の徹底
4. 施設経費削減

【 施策・評価 】

令和4年度施策と実績

1. 離職防止のための職場環境の整備
 - 1) 個人の事情に配慮した支援を行った
介護休暇、看護休暇、育児休暇（パパ育休）、ひとり親、新型コロナウイルスクラスターへの柔軟な対応（コロナ手当支給）
 - 2) 積極的な情報開示（見える化）
HPに処遇改善、行事、フードバンク、農福連携等も開示した
 - 3) 職員の多面工化による効率化
ケアワーカーと間接部門両方をカバーできるジェネラリストの育成に力を入れた
 - 4) 技能の適切な評価
より明確な人事考課制度の導入と実施、評価を行った
 - 5) 地域社会への積極的貢献
フードバンク、農福連携等で地域社会との関りを広げた
2. 人材定着と雇用管理
 - 1) 同一労働同一賃金を採用し、賞与等で適切な評価を行った。
 - 2) 日本語学校からの留学生を受け入れ、卒業後介護職への採用に繋がった。
3. 外国人雇用管理の徹底
 - 1) インドネシア人4名の技能実習生を受け入れ1年間就労ののち、技能実習2号に合格した。
 - 2) 千葉県留学生受け入れプログラムの受け入れ施設へ参加。令和4年5月以降に日本語学校に通いながら働く7名が4,5月に入国し3年後に介護福祉士を目指す。

4.施設経費削減

- 1) 新型コロナウイルス感染症対策で事業費、事務費ともに増大した。特に電気代の上昇が大きい（月によっては倍増した）
また、12月～1月に新型コロナクラスターが発生したため消耗品の出費も増えてしまった。
- 2) おむつ代はメーカーを変更したため前年より下げることができた
- 3) 食事については令和5年度に値上げが予定されているため対応を考える必要がある。

主な経費】

給茶器	345,611 円
事務消耗品	662,913 円
印刷代	821,260 円
職員健康診断	1,012,732 円
夜勤食	227,064 円
社員食（昼食補助）	82,927 円

【 業務スケジュール 】		
月	総務・人事	経理・他
4月		月次決算
5月	処遇改善実績報告書提出	第1回理事会 第1回評議員会
6月		
7月	夏季賞与・処遇改善加算金支給 社会保険標準報酬月額基礎届 職員健康診断	労働保険料第一期納付 第2回理事会
8月		
9月	永年勤続表彰	
10月	非常勤職員契約更新	労働保険料第二期納付
11月	賞与人事考課（処遇改善加算金支給）	第3回理事会
12月	冬季賞与	第4回理事会
1月	支払調書、法定調書提出	労働保険料第三期納付
2月		事業計画作成 第5回理事会
3月	処遇改善加算金支給・昇給人事考課 特定従事者健康診断	第2回評議員会

3-12 教育研修部門

1. 教育研修業務実績

- ①コロナ禍においても研修継続に取り組むため、レポート提出を導入。年間を通じて、年間研修計画に基づく施設内研修への取り組み。

1回目	2回目	研修内容
4月		
5月		口腔機能・口腔ケア
5月		褥瘡対策に関する継続的教育
	9月	褥瘡対策に関する継続的教育
6月		ターミナルケア（終末医療）に関する従業者研修
8月	2月	高齢者虐待防止の研修
8月	2月	身体的拘束等の適正化のための従業者に対する研修
7月	11月	感染症及び食中毒の予防及びまん延の防止に関する研修
7月		プライバシーの保護の取り組みに関する研修
1月		倫理及び法令遵守にかかる研修
10月	3月	認知症及び認知症ケアに関する研修
6月	10月	事故発生防止のための研修
12月	3月	感染症及び災害に係る業務継続計画のための研修

コロナ禍により集合研修からオンライン研修にて実施したが、取り組む職員は20%程度。オンライン学習が不慣れな職員も多いため、レポート提出に変更。実施しやすい内容に改善し、80%の実施となった。

②新入職員導入研修の見直しに着手。

現行の新入職員導入マニュアルについて主任を中心に見直し箇所を抽出。特養部門・デイサービス部門による必要箇所の違いなどが見られた。以降、新マニュアルを作成。

③技能実習生の学習サポートの開始

技能実習生4人の介護日本語学習を開始。感染対策と重なり予定変更が重なったが、実習生は、学習することに意欲的であり、先々の介護福祉士を目指すために継続した学習機会を提供したい。実施：記録の基礎となる「読む・書く」

2. キャリアアップ及び方々との交流による業務への取り組み形成など

- (1) 園内での実務者研修開講。(感染対策により試験対策は中止)
- (2) 高校生(福祉コース)との交流会
- (3) 千葉市介護合同就職説明会参加

資格取得を支援するため、実務者研修開講や国家試験対策の実施などを施設内で実施。高校との交流会は、新鮮な取り組みであり、日常業務へのさまざまな効果を期待したい。

3. 外国人職員の日本語のフォローアップ

特定技能介護、留学生の日本語力を上げていくためにサポートしていく。日本語検定試験(7

月、12月)へのサポート

総評:令和4年度は、新型コロナウイルス感染対策として集合研修は行はず、書面で行ったが定着率が不明な所もあり令和5年度は小規模単位での対面研修を実施していきます。

4 各委員会実績報告

4-1 安全対策委員会

【令和4年度 事業計画書に記載されている今年度の目標】

介護事故を起こさない為に、多職種協働において事故を予測し、組織的に事故予防に取り組む。事故再発防止の為に原因究明・再発防止の為に方策を検討・実施し、安心して介護サービスを受けられる環境を整備する。

利用者様の高齢化、重度化に伴い介護事故が利用者様の全身状態に与える影響が大きい事を認識し、全職員が知識・技術を研鑽し適切で速やかな対応が出来る様習得を図る。

【具体的な活動報告】

1. ヒヤリハットと事故の把握

ヒヤリハットと事故報告書の作成を手書きからワイズマンへと変更し、速やかに集計を行うことが出来た。またワイズマンを利用したことにより、他ユニットの報告書も速やかに閲覧することが出来るようになった。

2. 書面での施設内研修をおこなった。

感染拡大防止の為に集まって研修が出来ず。

3. 分析、防止策の実施できる組織体制の整備

重大事故が発生した時は、職員や他職種からの聞き取り・相談を行った。

【今後の活動について】

ヒヤリハットと事故の報告は委員会で行っていたが、再発防止の対策について強化していく。また、ヒヤリハットの重要性の確認と、事故防止について委員会として引き続き周知をしっかりと行っていく。

マニュアル(救急搬送・虐待疑いや重大事故発生時の委員会の招集について・事故や外傷の写真の範囲・身体拘束該当項目一覧)や帳票の提案・作成・見直しを行っていく。

専門職との事故予防の検討を行い、内容について周知する。福祉用具の活用なども含め、多職種と連携を強化し、安全で快適な生活を提供していく。

4 - 2 衛生委員会

【目標】

労働災害防止の取り組みは労使が一体となつて行う必要があるため、衛生委員会において労働者の危険又は健康障害を防止するための基本となるべき対策（労働災害の原因及び再発防止対策等）などの重要事項について十分な調査審議を行う。

- I. 労働者の健康障害を防止するための基本となるべき対策に関すること。
- II. 労働者の健康の保持増進を図るための基本となるべき対策に関すること。
- III. 労働災害の原因及び再発防止対策で、衛生に関すること。
- IV. 前三号に掲げるもののほか、労働者の健康障害の防止及び健康保持増進に関する重要事項。
- V. 入居者健康診断（年1回）、職員健康診断（年2回）、ストレスチェック（年1回）、職場巡視（月1回）

【施策・評価】

職場の健康障害防止・健康保持増進・労働災害防止のための活動を行うため以下の内容で年間計画をたてる。

I. 腰痛対策についての検討

1. 腰痛予防・腰痛緩和の取り組みとして、毎日2回（午前・午後）ラジオ体操の放送を流しているが、勤務の都合上、体操実施にはつながっていない状況にある。次年度では、職員の腰痛・腰痛緩和の取り組みとして、職員のラジオ体操実施が浸透し、実施できる職場環境作りの働きかけを目指して行く。

II. 職員健康診断の実施

1. 今年度8月に全職員対象、3月に夜勤従事者対象の健康診断を実施。
健康診断後の健康相談について産業医へ相談ができることをメールで配信。
しかしながら、健康相談の希望はなかった。今後も健康相談ができる旨のメール配信を継続していく。健康診断に伴う保健指導があり、対象者は面談を実施している。

III. 巡視チェックリストの提出・検討

1. 巡視チェックリストは毎月第1週目には各部署、提出しており、職場巡視の重要性を認識していた結果だったといえる。今後もより良い職場環境作りため、巡視チェックリスト提出の徹底を図っていく。

IV. ストレスチェックの実施

1. ストレスチェックを12月に実施。実施後の産業医への健康相談希望者はいなかった。
次年度でもトレスチェックの重要性を伝達していき、積極的な参加を促していき、心身共に障害なく、健康に勤務できる職場環境作りに取り組んでいく。

V. 働きやすい職場環境作り

1. 今年度も職員や職員家族にコロナ感染者が発生。感染拡大には至らなかったが、施設内が感染対応となる期間があり、また急な勤務変更や、休憩場所の変更等、職員の業務負担が増えた1年であった。さらに、労災事故の発生も今年度もみられた。次年度も引き続き、働きやすい職場環境作りとより良い・職場環境作りに力をいれて取り組むよう努力していく。

4 - 3 褥瘡対策・排泄支援委員会

<褥瘡対策部門>

【目標】

適切なケアにより、褥瘡が発生しないもしくは発生率が低い状態とし、QOL向上に努めることにより、心身ともに穏やかな生活を送られるよう支援する。

【施策・実施状況】

- 1、毎月1回の委員会をが、コロナ禍のため、なかなか開催出来ず、各部署からの現状報告にとどまることが多く、意見交換、問題改善に取り組むことが出来なかった。
- 2、多職種連携により、褥瘡の早期発見に努めていても、発生した場合はすみやかな早期改善を目指すための情報共有を行った。
- 3、褥瘡予防を目指した食事・排泄のケア、体位変換技術等を習得するために施設内研修を行う。
5月・9月に褥瘡対策に関する継続的な教育を開催。テーマ「褥瘡予防とポジショニング・褥瘡の予防方法」
コロナ禍もあり、各自レポート提出した。
- 4、介護保険改正に伴い、入所時及び1回/3か月ごと入居者別にモニタリング指標を用いた評価を行い、ケア計画書の作成と見直しを行う呼びかけと実施確認を行った。(4・7・10・1月実施)

5、年間褥瘡処置発生件数

1) 褥瘡発生部位

臀部	8件	背部	1件
外踝	1件	踵	4件
大転子部	1件	足趾	1件

2) 対応策

①毎日の医務処置と観察

②原因の追求と対応策の提案

③おむつ内環境を整える等の清潔保持。

褥瘡・傷がある人には洗浄液を使用しないで、微温湯のみで陰部洗浄をすることを徹底する。

④皮膚の蒸れを軽減し皮膚トラブルの予防をするため、ラバーシートをはずすことを推奨。

⑤適宜、褥瘡予防用具の使用を推奨。

マキシフロートマット、スライディンググローブの使用。

⑥機能訓練より除圧、摩擦の予防、具体的な体位交換、ポジショニング法の指導を受ける。

⑦栄養面のサポート

毎月の体重測定からBMIを算出し低栄養状態の入居者様をピックアップし、ハイリスク予備軍の確認を実施。また低栄養状態の入居者様の体重測定を月2回で実施し栄養補助食品の提案、検討を行う。

⑧マットの見直しを行い、適宜、エアーマット・マキシフロートマットを褥瘡の有無や低栄養の方に優先的に導入。

以上①～⑧の対応策により褥瘡予防、皮膚状態の増悪防止ができた。一方で同じ部位に皮膚トラブルが再発するケースもあった。

【考察】

表皮剥離や褥瘡等の皮膚トラブルが発生した時、関連部署との連携により情報共有、早期発見により対応ができた。今後も正しい姿勢、体位交換、清潔保持、栄養状態の観察、体調管理に努め褥瘡予防に施設全体で取り組むことを目指した呼びかけを続けていく。

引き続き褥瘡予防・対応に関する知識を得ていくために、研修を行っていく。

発生した場合は適切な褥瘡ケアを各部署と連携しチームケアとして取り組むこととする。

＜排泄支援部門＞

【 目 標 】

排泄は、非常にプライベートな行為である為、誰かの手を借りることに抵抗がある。失禁などの失敗をしたときにネガティブな状態に陥ったりする。

自尊心を傷つけずに生活機能の維持を図る支援を目標に多職種連携による ADL の維持・改善に努める。

【施策・実施状況】

- 1・多職種協働によるカンファレンスは、コロナ禍において実現できず、ユニット内においての話し合いにとどまる。
- 2・オムツ使用の適正化を継続して働きかけた。
- 3・入居者様にあった排尿・排便時間のルーチン化については、各ユニットで出来ているととらえ、排泄委員会としては、関わらなかった。

【今後の活動】

排泄と皮膚に関する職員の意識改革に重点をおき、講習会の開催・また委員がフロアの排泄を見回り、適正化を図れるよう支援していく。

また、メーカーの支援も受けながら、排泄のメカニズム等の再学習の機会を設ける。

4 - 4 防災委員会

7月6日 消防訓練 結果

日時：令和3年7月6日 13：00～16：30

場所：千葉市消防総合センター

防災実務研修参加

13：00～14：00 消火要領（消火器の取り扱い・屋内消火栓操作）

14：10～15：10 避難要領（避難器具の取り扱い・担架搬送）

15：20～16：20 情報伝達要領（自動火災報知設備・非常放送及び非常電話の操作）

3月29日 避難訓練 結果

日時：稲毛こひつじ園

参加者：入居者 職員

想定：日中想定

【1階評価担当の意見】

・職員間の声掛けはなかったが、担当番地が終了すると他番地へ応援に行く姿がみられた。1名ずつ誘導していたのでトラブルはなかった。避難完了の連絡内容（人数）が不足していた。ヘルメットを着用していない職員もみられた。1Fはドアを閉め、ネームプレートを横にずらしていた。不安になるような大声ではなく、落ち着いた声で誘導していた。全員が塞いではいなかったが、タオルを手を持つことはできていた。

【2階評価担当の意見】

・職員同士の声掛けを行い入居者の誘導を安全に行う事ができた。危険を回避できるように声掛けし安全の確保ができた。ヘルメットについては、災害時同様に状況に応じての対応はできた。携帯電話を利用し避難完了の伝達ができた。誘導済みの居室に目印を置く事ができていた。居室の出入り口が開いているところがあった。職員同士の声掛けもできていた。タオルで口をふさいで頂く事もできた。

【3階評価担当の意見】

・避難誘導時に各職員間で確認しながらできた。安全に避難誘導ができた。連絡等に問題はなかった。ドアを閉めることはできていたが、目印を置くことを忘れていた所が見受けられた。避難誘導時の各職員の声掛けは良かった。ご利用者様にタオル等で口を塞いで頂くなどできていた。

あざみ自治会との防災協定を結び地域と連携していきます

4－5 食中毒蔓延防止・感染対策委員会

1. 感染委員会年間経緯

春・職員発熱・体調不良・濃厚接触者の増加に対応(感染対応範囲・欠勤日数)を職員不足にならないように調整

- ・千葉県主催の抗原検査実施定着…提出良好
- ・食中毒予防啓発

夏・市中は感染拡大、注意喚起、ワクチン接種の推進

- ・職員体調不良時の連絡方法確認
- ・疥癬発生2Fクラスター。職員・3階にも広がる
マニュアルの見直し・長袖ポロシャツ配布・疑いありで早期受診
プラ浴のシャワー活用・マットレスや居室やリネン庫のバルサン散布

秋・職員のコロナ感染や利用者発熱で感染対応増加、職員不足の懸念

- ・感染対応備品点検・ガウンテクニック研修ユニットで実施。
- ・インフルエンザ予防接種推進、予防啓発
- ・コロナ・インフルエンザ同時感染の対応検討

冬・利用者・職員のコロナ感染クラスター発生

- ・保健所に指導により換気・ゾーン分け実施、感染対応一部見直し
- ・換気、消毒の声掛け

2. 反省

・疥癬…状況の変化に合わせて柔軟に対応することができた。

発生初期は洗濯機など不足と手順の確認に手間取った。

・コロナ感染…感染対応の知識・準備不足がクラスターまで発展してしまった。

保健所からの指導でゾーン分け・換気レベルが良く分かった。

油断しないよう日頃からの感染対応への意識や知識の保持が大切と思った。

感染用備品の確認し感染対応になったとき即対応できるようにする。

・栄養課…ディスプレイへの切り替えは早かった。食器以外のコップ・スプーン等の準備が不十分であった。

現在は使用量を予測して発注・購入準備が整っている。

厨房出入口の床に汚れあり、不衛生。営繕による床掃除ができない為、継続的に汚れあり。

給食委託業者に感染者なし。配膳下膳方法・手順を厳守できた。

・機能訓練士…当日中の機能訓練は同階・フロアでできる限り他階との往来を少なくしている。

デイサービスで体調不良者が出たら、特養への立ち入りは禁止している。

感染対応中やコロナ罹患の為、機能訓練が行えない方もいる。また長時間の臥床・活動量の低下により身体機能低下がみられる方がいた。

感染対応の連絡を受けにくい。タイムラグがある。

・感染対応の更新内容が周知に時間がかかる。理解・実行(継続)されにくい。

事務職員で感染対策についていうことがまちまちで混乱した。事務所内で指揮(情報管理)する職員が必要と感じた。

・感染委員作成「2階クラスターの反省」を再確認し行動の見直しをしたい。

・ウイルスを施設に持ち込まないため、体調不良の職員が休みやすい配慮が重要。

・物品の配布に偏りがある。各ユニット・部署での在庫を把握する必要がある。

・感染対応になると入浴が中止になってしまい利用者様から不満の声が度々あった。

これから汗をかき不衛生になりやすい。感染対応時の入浴について検討が必要。

新型コロナウイルス施設内クラスター12月22日～2月末 感染者26名(内5名死亡)

4-6 広報行事委員会

【目標】

I.施設行事を開催し、入居者、ご家族、地域の方との交流を深め共存していく

II.季刊誌を発行し、ご家族、地域の方たちへの情報提供

【具体的な活動】

○コロナ、その他各階感染対応が続き、職員同士の集まりも極力避けるということから委員会開催(4月～7月) 書面開催(8月～3月)。

○移動パン屋(5月19日)イベントが出来ないので、買い物支援の一環で菟台町の移動パン屋(松嶋屋ベーカリー様)に依頼し、手作りパンの販売を行う。

○縁日 秋祭り クリスマス会 新年会 節分 コロナ渦のため、中止。

○敬老会 感染対応中だったため、各ユニットごとにて実施。全体集合はなし。

各ユニット、歳祝いの方へ施設長より表彰状の授与。利用者全員にコメント入り手提げ、かもめのたまご(デイサービス)、卵ポーロ(ユニット)、歳祝いの方へ写真立て付きソープフラワーBOX贈呈。

各ユニット、デイサービスヘアレンジフラワー贈呈。

各ユニットへの花の数を増やしたいとのことで、単価を下げ、花の数を増やす。

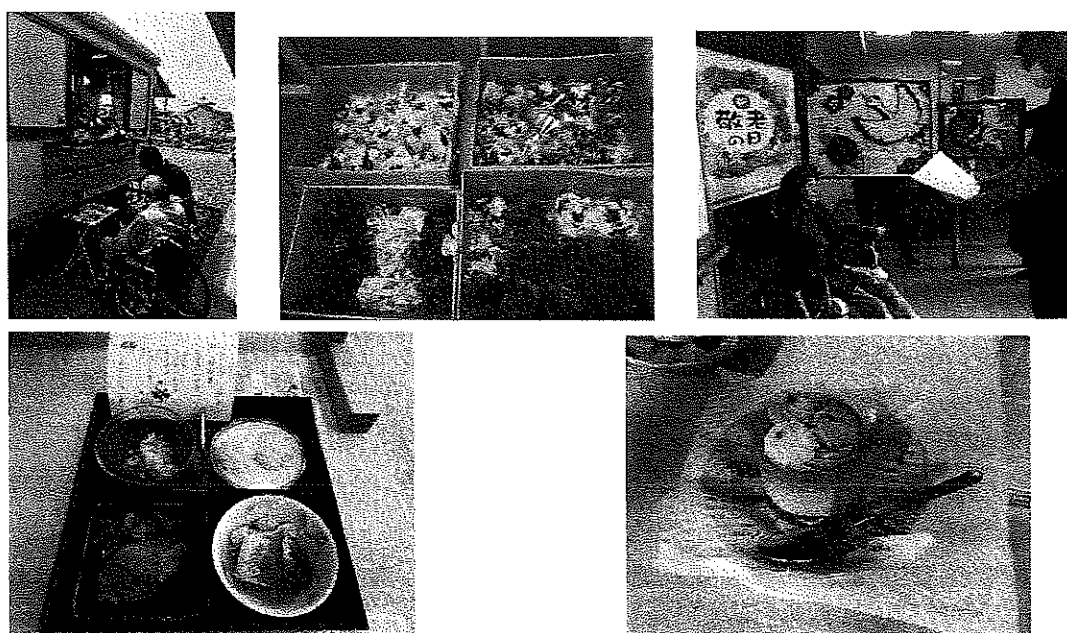
デイサービスお客様制作した敬老会飾りを作成する。

お祝い用のちゃんちゃんこ(黄色、紫色、ピンク)を購入し歳祝いの方に、着ていただき敬老会飾りを背景に記念撮影を行った。

例年通り、職員表彰も行った。

○クリスマス会 12/24 各ユニットごとで実施。
昼食はクリスマスイベント食。
おやつにケーキを提供する。
菓子、ジュースを準備し各ユニットに配る。

○餅つき大会 感染対応のため、中止
○豆まき 感染拡大のため、中止。



【総 評】

昨年度よりコロナウイルス感染の影響でイベント中止が続き、また、コロナ渦に伴い、発熱等による各ユニットの感染対応が常にどこかで行われている状況が続きました。イベントだけでなく、職員同士集まることも少なくなっていた年となりました。イベント開催のやり方も見直しました。

敬老会のように利用者様にとって大きなイベントを開催するにあたって、今回は祝敬老会ボードをデイサービスのお客様に制作していただき、各ユニットに移動させ歳祝いの方の写真撮影背景に使用しました。盛大なお祝いはできませんでしたが、記念に残る写真で喜んでいただきました。

施設全体での行事は出来ませんでしたが、各ユニット毎に工夫をし、利用者様に喜んでいただけるよう行いました。

次年度も状況は大きく変わらないと思われ、引き続き、小規模でも利用者様に喜んでいただけるイベント開催をしていきたいと思っております。

4 - 7 拘束廃止・虐待防止委員会

【令和4年度）事業計画書に記載されている今年度の目標】

拘束廃止を目標とすることで、日常業務での取り組みやユニット内での連携において各職員が必要な情報を共有し、施設全体で拘束を行わないサービスを提供する。

拘束廃止を実現していこうとする取り組みにおいて、その過程の中で生じた課題を受け止め、それらをケアの質の向上のきっかけとし、拘束廃止を最終目標とせず、よりよいケアの実現に向けて取り組んでいく。

【具体的な活動報告】

- ・安全対策委員会と合同で会議を開催し(会議時間は1時間)、連携をしながら意見交換、対策協議などを行った。
- ・身体拘束を行う可能性のある入居者に関する現状の把握と、問題に対する対応策の意見交換を毎月行った。

【センサーマット使用】

今年度、身体拘束同意書を通しセンサーマット使用した入居者が3名いた。

- ① I・M様 R3年9月5日～退院時使用開始
理由：ナースコール理解なし。ベッド上での体動があり
転落・転倒リスクあり
方法：センサーマットをベッド脇に置く／24時間使用
- ② H・S様 R4年10月12日入所時から使用開始・継続中
理由：ナースコール理解なし。動作が早い為転倒・転落リスク高い。
方法：センサーマットをベッド脇に置く／24時間
- ③ H・Z様 R4年7月5日～使用開始
理由：ナースコール理解なし。立位による転倒・転落のリスクあり。
方法：センサーマットをベッド脇に置く／24時間

【今後の活動について】

今後も引き続き「生命又は身体を保護するため緊急やむを得ない場合は身体拘束が認められているが、当施設では身体拘束を廃止していく姿勢を堅持することを重要とする」という目標を第一として考え、入居者が安心・安全に暮らすことができる環境づくりと生活の質の向上を図っていく。拘束廃止・高齢者虐待にかかわる介護保険法を遵守し、減算対象とならないようにする。「拘束廃止」をゴールとせず、個々の課題を真摯に受け止めよりよいケアの実現に向けて行くことを目指していく。

4－8 入浴委員会

【目標】

- 1、入浴の目的、心理的、生理的、社会的、文化的な目的を踏まえて、ご利用者様に安全で快適な入浴を楽しんで頂く。
- 2、ユニット職員と入浴担当職員の連携、伝達を確実にし、ご利用者様それぞれに合わせた入浴を目指す。
- 3、各浴室を快適で安らげる空間であるよう取り組む。
- 4、感染対応時は状況により入浴し出来なければ清拭対応とする。

【対策・評価】

- 1、前年度に引き続き毎月の入浴剤の取り組みを行い、季節の変化を楽しんで頂いた。今年初めてレモンの実物を入れ入浴して頂いたが皮膚のトラブルもなく実施できた。
- 2、毎月の委員会にて各フロアの入浴状況を報告し合い改善に努めた。
- 3、入浴物品など劣化があるものは購入し利用者様の安全確保を図った。

【考察】

- 1、入浴剤は毎月好評なため今後も続けていきたい。
- 2、入浴機器や物品は随時確認、点検し安全確保が必要。
- 3、各フロアの入浴状況は週2回、入れているが曜日の変更や1人介助入浴で余裕のある入浴とは言えない為、人員確保をして頂きたい。

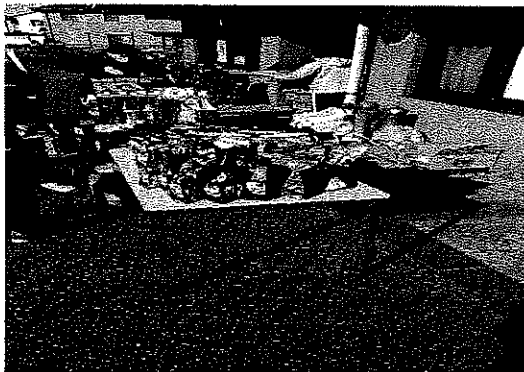
5 地域福祉部門

買い物支援、地域カフェ、こども食堂、こひつじ市場は新型コロナウイルス感染予防のため中止させていただくことになる。

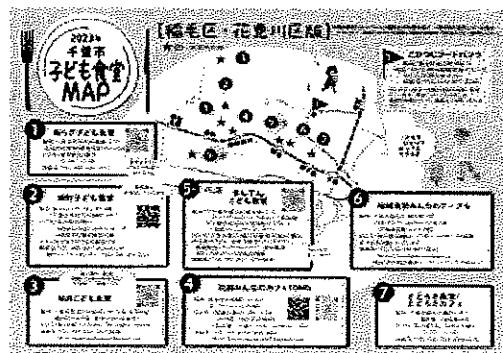
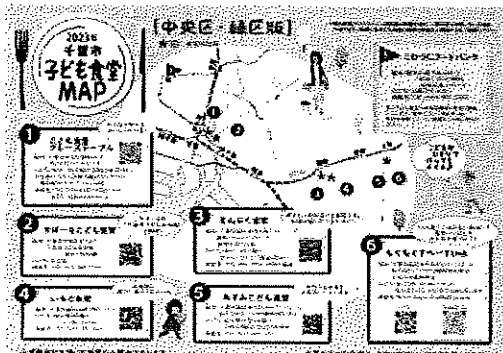
フードバンク活動企業、地元農家、こひつじ農園、近隣の方々より寄付年間18トン
睦沢町社会福祉協議会、袖ヶ浦市社会福祉協議会との（フードバンク物品相互融通）
厚生労働省ひとり親家庭子ども食堂支援事業実施、3月20日、27日
今後、千葉県全体でのフードバンク活動を目指す

また、あやめ台団地より秋祭りの出店依頼がありまして感染対策を講じながら参加させていただきました。

萩台天台あざみ自治会フードドライブ様子（毎月最終日曜日）

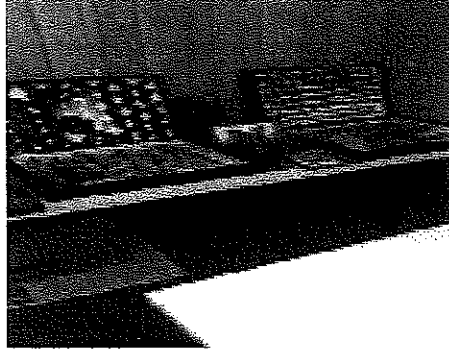


子ども食堂が開催できないため、千葉市子ども食堂ネットワークにて他の子ども食堂の応援のためフードバンクより提供しております。児童養護施設4か所お渡ししております





地域の子ども会と共に、夏休みの楽しみとして昆虫博士に来ていただきカブトムシについてご講義いただきました
(ムシキング)



高校生との交流



コロナウイルス感染対応の中で施設見学ができないため zoom での交流を犢橋高等学校、君津青葉高等学校と繋いで交流し楽しい時間を過ごしました

6 ほっとスペース 稲毛ペコリーノ

1. 介護人材の育成

1) 実施状況

講座名	クラス	受講生	合計(延べ人数)
介護職員初任者研修	7	97	379
介護職員実務者研修	13	124	
福祉用具専門相談員	4	39	
同行援護研修(基本・応用)	6	54	
レクリエーション介護士2級講座	2	17	
介護福祉士試験対策(対策・直前対策・模擬)	4	48	

2) 技能実習生の学習サポート

感染対策により予定変更が重なったが、苦手としている「読む・書く」をオンラインで学習。実習生からは、前向きな姿勢が見られており、継続的な学習を考えたい。

3) 他施設への支援：浮間こひつじ園：新入職員研修、浪岡の家：職員紹介

4) その他事業

- ・千葉県委託事業：介護に関する入門的研修、「期待しています！」シニア人材事業
母子家庭の母等に対する就業支援講習会
- ・千葉市委託事業：母子家庭等就業支援介護職員初任者研修、キャリアアップ研修運営
- ・船橋市委託事業：介護と福祉の合同就職説明会事前ガイダンス 動画作成
- ・白井市委託事業：介護と福祉の就職フェア 運営サポート
- ・市原市委託事業：介護フォーラム運営、キャリアアップ研修運営
- ・講話説明会依頼：介護労働安定センター、訓練校、JICE、外国人材センター
- ・高校交流会：檜橋高校、君津青葉高校、佐倉西高校、市原高校
- ・千葉市地域日本教育推進会議参加依頼



2. 振り返り

昨年に続き、コロナ禍による定員減により初任者研修と実務者研修の受講者は、それぞれ、昨対〇〇%、〇〇%であった。(予算 2780 万円/実績 3260 万円)

改めてマーケティングを行い受講対象者やポジションを見直したい。一方で、外国人材学習は、外国人の初任者研修など新たなニーズを捉える為、積極的な開講を勧めた結果、組合からの問い合わせもあった。今後も介護施設・組合・支援機関への周知を強めたい。また、身分に基づく在

社会福祉法人初穂会 事業報告

編集：稲毛こひつじ園

令和5年 6月 日発行

留資格者からの問合せもあり、外国人ネットワークに侵入したい。尚、委託事業の企画提案などにより 11 件を受託。市町村からの評価も得ている。委託事業を通じて施設との関係ができている地域には、出張開講を行い、新たな展開を行う。